



子育てチャンネル

学ばべきものは天然

2010年5月、定年退職を機に東川町に越してきました。今は縁あって、「地域子ども教室」や「東川サポートクラブ」のお手伝いをしながら、子どもたちと楽しく過ごしています。豊かな自然に恵まれた東川町、子育てには申し分のない環境だと思っています。

北海道が大好きで、夏休みには家族で毎年のように訪れ、だれもない山や湖を探しては独り占めの気分を味わっていました。2人の子どもは文句も言わずについて来ましたが、内心はどうだったのか…。でも北海道の雄大な自然の中に身を置くことの喜びは感じてくれたようです。生まれつき備わっている子どもの『センス・オブ・ワンダー』（神秘さや不思議さに目を見張る感性）は、

大人になるにつれ、自然から遠ざかるにつれ、だんだんと失われていくようです。夜空に輝く天の川に感激したり、山頂を吹く風に飛ばされそうになったり、自然の中でのさまざまな体験はとても大切だと思います。

やがてわが家にも、高校進学という現実がやって来ました。



『知識』よりも『感性』を大事にしたいと思っていましたので、わが子がそれにふさわしい学校を選んでくれたときは、本当にうれしかったです。

その学校は山形県の飯豊山の麓にあります。全校生80名弱という全寮制の小さ

な学校です。

「読むべきものは聖書、学ばべきものは天然、なすべきことは労働」（内村鑑三）という教えのもと、じっくりと自分を見つめることができる学校だと感じましたが、本人もそのようなふうに思ったようです。

教科の学習とともに、鶏や牛の世話、野菜や米作りといった農作業にも取り組

みながら、山深い自然の中で自分の感性を高めてくれました。全寮制という濃密な人間関係もプラスに作用し、生涯の友を得たのも大きな収穫でした。

帰省した折り、登山やキャンプ、コーラスなど学

校の様子をいきいきと話す兄の姿を見て、下の子ども同じ学校を選びました。在学中は、私たち親も新たな学びがあり、大変有意義な6年間でした。十代後半の多感な3年間、親に代わって見守っていただいた先生方や地域の方々には今も感謝しています。

最後に、いつも心に留めている『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン）の一説を記します。

「わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。」

東川サポートクラブ

古内 秀人